

令和6年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書（最終評価）

重点目標番号	具体的な取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	判定	分析及び今後の課題（案）
1 授業実践力の向上	【教科指導の校内研究】 教科別の指導や各教科等を合わせた指導において、教科の見方・考え方を意識した働きかけを工夫し、授業実践力の向上を目指す。 ・教務課	【努力指標】 児童生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるように場面を設定することができる。	児童生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるような場面設定ができると考える教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 99%	児童生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるような場面設定ができると考える教員の割合は、99%であった。他の教員の事例を参考にすることで教科の見方・考え方についての理解が進み、取り組みやすくなつたと考えられる。どのような場面を設定したかを問うと、児童生徒が具体物を使ったり体験したりする等の具体的な活動場面や、選択した理由を思考する場面で声掛けを工夫したとの意見があがった。一方で、各教科等を合わせた指導の中での場面設定はまだ十分とはいえない課題であると考えられる。今後は、各教科等を合わせた指導の中でそれぞれの教科の視点やねらいを踏まえて授業計画と実施を進め、授業実践力の向上を目指していきたい。
	【GIGA校内研修】 タブレット端末等のICT機器を授業の充実のためのツールとして利用できるように、教員にアンケート等を実施し、要望や習熟度等に応じた研修を実施する。 ・情報課	【成果指標】 ICT活用研修会は有益だと感じられるような研修会を実施し、授業等に生かすことができる。	実施した研修会が有益であり、授業等に活かすことができると感じた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 97%	実施された研修会が「有益」または「概ね有益」であり、授業等に活かすことができたと感じた教員の割合は、97%であった。「他の教員の実践例を紹介してもらい、タブレットを使った色々な授業のアイディアを学ぶことができた」「授業に活かせる内容が多く、この研修の機会に相談することができた」「授業においての、ロイロノートの実践例を基に活用することができた」「研修で学んだ機能を使って、算数の授業で使う課題を作成することができた」等の意見があった。習熟度別に、アプリの使い方や授業実践の意見交換等の研修を実施したことで、一定の成果を上げることができた。今後も授業等に活かすことができるよう、基本的なアプリの使い方や校内の実践交流等の研修を計画実施していく。
2 安全・安心な学校運営	【災害時体制の整備】 危機管理マニュアルを基に、教員が非常災害時の自分の役割を理解しながら行動できるようにする。学校安全課は訓練時の職員からの意見を参考にし、危機管理マニュアルの内容を随時アップデートできるようにする。 ・学校安全課	【成果指標】 避難訓練や気象災害時に、危機管理マニュアルを基に、自分の役割を理解し、学校や児童生徒の安全を守るために行動を適切にとることができる。	避難訓練や気象災害時に、危機管理マニュアルを基に、学校や児童生徒の安全を守るために行動を適切にとることができたと考える教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 96%	年間を通して、避難訓練や気象災害時に訓練実施要項含む危機管理マニュアルを基に、学校や児童生徒の安全を守る行動を適切にとることができたと感じた教員の割合は96%で、中間評価より2%上昇した。今年度は、各災害マニュアルの大幅な見直しを重点的にを行い、事前予告なしの避難訓練を行なうなど、前年度から発展した取り組みを行うことができた。「日頃から高所に物を置かないようにしている」、「マニュアルが訓練時に不都合がないか」等、教員が各所で危機管理について考えて行動している様子が見て取れる回答が多く、意識の高まりが強く感じられた。今後もより現実的で実用的なマニュアルになるよう修正を重ね、職員、児童生徒の意識向上につながるように進めていく。
	【災害時の保健管理】 非常災害の発生に備え、以下のように保健管理体制を整える。 ・災害時用預かり薬に関する校内体制の構築 ・食物アレルギー対応備蓄食の備蓄管理 ・災害発生後の心のケア等に関する健康教育 ・保健体育課 ・生徒課	【満足度指標】 学校の災害発生時の保健管理体制に満足している。 (保護者アンケート)	災害発生時の保健管理体制に満足していると答えた保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 98%	保護者アンケートの結果、災害発生時の保健管理体制に「満足している」と感じる保護者の割合は小学部97.5%、中学部100%、高等部98.4%で、全体では98.3%であった。中間評価では非常食力率の摂食状況の把握と、薬の預かりの状況より「非常時の体制に安心している」等の意見が多く見られた。最終評価では薬の管理体制を保健だよりで報告したこと、より安心したと回答した保護者が増えた。一方で停電になった時の温度管理について心配する声が寄せられた。今後は非常時に適切な健康管理ができるような体制を検討していく必要がある。
		【努力指標】 災害発生後の心のケア等を理解し、支援をしている。	災害発生後の心のケア等を理解し、支援できていると考える教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 95%	災害発生後の心のケア等を理解して支援ができたかどうか、予告をしない避難訓練時の子どもたちへの支援について、教員へのアンケート調査を行った。アンケートでは95%の教員が「心のケアを意識した行動を実践できた」「概ねできた」と回答した。災害発生後の心のケア等を理解できるように、研修後には、「震災はいまだに子どもたちの心に大きく残っていて、そのことを忘れずに接していくたい」「アニバーサリー反応にも大丈夫と対応し、安心感をもたせたい」等の意見があった。

3 教育支援体制の充実と指導力・専門性の向上	【教育支援体制の充実】 進路や卒業後の生活に関することについて、保護者や教職員が理解を深める。外部機関と連携し、講師を招聘するなどして研修会を実施する。 ・進路支援課	【満足度指標】 進路に関する研修内容について概ね理解できた、あるいは満足している。 (保護者アンケート)	進路に関する研修の内容がわかり、満足していると答えた保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 93%	保護者進路懇談会の内容に「満足している」と回答した保護者の割合は45%、「概ね満足している」と回答した保護者の割合は48%と参加者の93%の保護者が満足している結果となった。一方で、当日の参加人数が少なかったことが課題としてあげられる。平日開催ということもあり、「日程が合わなかった」等の意見が多く寄せられた。また「あまりあてはまらない」と回答した保護者から、保護者進路懇談会の形式についてや卒業生の保護者の意見を聞きたかったなどの意見が挙げられたため、時期と内容の見直しが必要を感じた。
		【努力指標】 進路に関する研修内容について概ね理解できた。	進路に関する研修の内容が理解できたと答えた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	A 86%	保護者進路懇談会の内容が「理解できた」と回答した教員の割合が20%、「概ね理解できた」と回答した教員の割合が66%となり、86%の教員が理解できた。課題としては、内容の理解に向けて、資料をまとめて掲示したが、資料を読むだけでは理解に繋げることが難しい内容もあった。そのため、日程や資料の提示方法の工夫が必要であると感じた。
	【指導力・専門性の向上】 石川県教員育成指標を踏まえ、自らが伸ばしたいと考える資質能力や自らが身に付けたいと考える力を高めることを目指して主体的に受講する。 ・研修研究課	【努力指標】 自ら伸ばしたいと考える資質の向上を目標として、校内外の研修を2回以上受講した教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	自ら伸ばしたいと考える資質の向上を目指して、校内外の研修を受講した数が3回以上の教員の割合は89%、2回以上の教員の割合は7%であった。中間評価時より3回以上受講した教員の割合が6%増え、年間を通じて多くの教員が主体的に受講することができた。今年度は校内研修を充実させたことが成果につながったと考えられるが、石川県教員総合研修センターが開催する希望研修への参加数は昨年度よりも減少するという課題が見られた。今後、校外研修への参加を奨励して積極的に呼びかけ、自ら学ぼうとする教師が気兼ねなく参加できるような雰囲気を醸成していく。	B以上で達成	A 96%	
4 業務の効率化・平準化の推進	【業務内容の見直しによる業務の改善】 自らめりはりのある働き方を目指すとともに、部や課での役割分担や業務内容について効率化できるものがあれば見直し、一部の職員に負担がかからないように業務の平準化を図る。 ・教頭	【努力指標】 業務内容の精選やICT活用または業務分担の見直しにより、業務の平準化を進めている。	業務内容や方法または業務分担の見直しを行い、業務の平準化が図れたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	B以上で達成	D 41%	各課主任・副主任、学年主任、部主事等を対象にアンケートを行った。資料のデジタル化や会議時間の短縮、業務を精選し不要な業務の削減等に取り組み、「業務の効率化や見直しを行った」教員の割合は93%と中間評価と同様だった。新たに係を決める場合は抱えている業務の時期や内容等を照らし合わせて、負担にならないように努めたが、業務の平準化が図れたと感じる教員の割合は41%であった。手順をマニュアル化することで、多くの教員が同様に業務ができるようにしたり、業務の見える化をすすめ、忙しい時期には他の教員がサポートできるようにしたりして、特定の時期に特定の教員に負担がかからないようにする等、継続的に見直しと改善を重ねていきたい。